



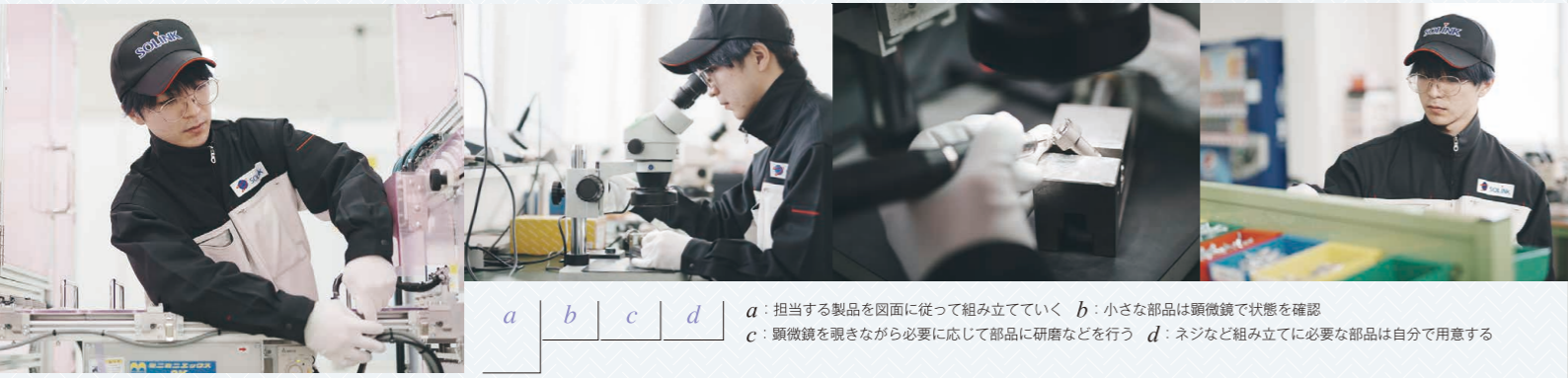
カスタム製造装置を
高品質に組み上げる

2001年10月に創業した株式会社ソーリンク。「東北の製造業を強くしたい、盛り上げたい」との思いから、現代表取締役の桐山秀造氏が創業。
これまで採用管自動塗布装置、高精度高速面積検査装置など、お客様のニーズを最大限にかなえるカスタム製造装置を作り上げてきた。

アルバイト1カ月で正社員へ
完成に大きな達成感
自分の技術を高める

アルバイトで1カ月働くと、すぐに正社員登用の話が持ち上がった。「経験者だったのも大きかったと思います。話を受け、社員になりました」。それが2020年7月のことだ。安達さんは設計担当者が描いた図面を見て、それを自分の手で実際の製品に仕上げるのに無上の喜びを覚えるという。「設計の人とはたまに「これはメカ的におかしい」などと言って議論することもありますが、渡された図面から、自分で部品などを用意して製品を組み上げていく作業は本当に楽しいですし、完成したときはやっぱり大きな達成感があります。これこそこの仕事の醍醐味だと思います」

また、風通しのいい職場の雰囲気も自分に合っているという安達さん。「オンとオフがはっきりしているのが特徴です。仕事のときは仕事に集中して、休憩のときは雑談で盛り上がりがあります。ストレスなく仕事ができます」。安達さんの今の目標は技術力を高めること。それが自分のためにも、会社のためにもなると確信している。



a: 担当する製品を図面に従って組み立てていく b: 小さな部品は顕微鏡で状態を確認 c: 顕微鏡を覗きながら必要に応じて部品に研磨などを行う d: ネジなど組み立てに必要な部品は自分で用意する

「図面を見て自分で製造の準備をし、作り始めて最終的に完成したときは本当に達成感があります」と安達さんは笑顔で話す

教えてくだない! ACEの仕事ぶり



物覚えは本当にいいと思います。工具や加工機の扱いをすぐ理解しますし、吸収の速さに驚かされます。手順をしっかり考え、先読みして準備できる点も素晴らしいです。ただ、先走りすぎることがあるので、そこは自覚を持ってほしいですね。性格は明るく、笑顔がよく見られます。一緒に働く仲間とも休憩中などは楽しく談笑しています。現場の和ませ役としても、技術者としても大いに活躍してほしいです。



休憩中に雑談で盛り上がることもしばしば。明るい職場の雰囲気に安達さんの笑顔も常に絶えない

product
組み上げる装置の
見栄えにも気を配る

単に完成を目指すのではなく、配線をきれに行うなど装置全体の見栄えがいいよう心を砕く



部品選びから研磨など細かい作業もお手の物!

3D設計で高難度の装置まで実現
営業・設計・加工・組立・設置まで自社で行う!

社名のソーリンクは、双方向（ソー）につながる（リンク）という意味が込められている。いわゆる自動化装置のカスタム製造を請け負う企業で、まずはヒアリングでニーズを徹底して追求、そして、設計から製作、現場設置まで一貫体制で対応できるのもソーリンクの強みだ。3D設計により高難度の装置製造が可能であり、画像センサーとサーボモータ（回転位置や回転速度などを制御できるモータ）を使用し、高精度・高速装置を提供する。装置の組み立て・調整は0.01ミリ単位で行い、「良いもの」を作ることには心血を注ぐ。



依頼を受けた製品を1台1台丁寧に完成に導いていく

株式会社ソーリンク
 □所在地/黒川郡大和町テクノヒルズ31(本社・大和工場)、富谷市ひより台2-2-9(富谷工場) □代表取締役/桐山 秀造
 □資本金/2,000万円 □創業/2001年10月 □従業員数/45人(2023年1月現在)
 □事業内容/各種自動化装置のカスタム製造 □企業メッセージ/世界のものづくりの発展にカスタム製造装置で貢献いたします
 TEL 022-347-3611(本社) https://solink.co.jp/



手に職をつけるため機械科へ
製図に夢中になった後
組み立ての面白さにはまった

母親の「社会に出るために手に職をつけよう」という提案から、宮城県工業高等学校機械科で学んだ安達隆哉さん。「高校では図面を描くことが楽しくて、夢中になりました。機械科の友達はあまり取らないような技能検定の機械・プラント製図3級も在学中に取得しました」。製図に面白みを感じた安達さんは高校卒業後の就職先も製図が行える会社を探し、見事入社にこぎつけた。しかし、ここでまた新たに心を奪われる作業に出合った。それは組み立てだった。「高校を出てすぐに入った会社で組み立ても担当したのですが、これにはまってしまいました。製図よりもこっちをもっとやりたいという気持ちになりました」。初めて正社員として働いた会社は1年半ほどで退社。その後は居酒屋で働いたり、食品デリバリーの仕事をしたりと職を変え、本人いわく、「あの頃は迷走していた」と振り返る。そんなあるとき、ソーリンクで働く高校の同級生から誘われたのがきっかけで、まずは組み立て担当のアルバイトとして今の会社で働くことになった。



高レベルな資源リサイクル社会の実現に寄与する企業を目指す

1995年7月に有限会社ファースト・エンジニアリングとして立ち上がったのが第一産機の始まり。今、中心事業となっているバイオマスボイラーの製作に携わるようになったのは2000年から。21年に同社のバイオマスボイラー「WABE-20B」が第13回みやぎ優れMONOに認定されるなど、業界のトップランナーとしてその存在感を着実に高めている。

社会にも会社にも貢献する
丁寧に、そして着実に
仕事を覚える

「製作サポート」とは、「先輩たちが仕事をしやすいようにサポートする役割です。鉄板にドリルで穴を開けたり、頼まれた物を運んだり、本当に様々なことを経験させてもらっています」。入社してまだ間もない高橋さんだが、自身に課しているのは「着実に、しっかりと仕事を覚えていく」ことだ。「会社からも丁寧に仕事を覚えていくようにと言われていて、早く戦力になりたいという思いもありますが、はやる気持ちは抑えて、それこそ丁寧に一つ一つの作業に当たるようにしています」

溶接の練習は自ら進んで行っている。「資格はあるのですが、溶接の実践はほとんどしてきていないので、慣れる必要があります。空き時間に練習させてもらっています」と、努力を惜しまない。「会社にも、社会にも貢献したい」と話す高橋さんは5歳の娘を持つ父親でもある。家族の生活を守るために汗を流し、一生懸命に仕事を習得していく。



a:「ドリルを使っての穴開けはだいぶ慣れてきました」と高橋さん b: 空き時間に溶接の練習を欠かさない c: 工具の扱い方を日々習得中 d: 先輩たちの作業をサポートしながら仕事を覚える

「この仕事なら高橋に任せようというものを早く持ちたい」と高橋さん。ものづくりの楽しさ、そして難しさを感じる毎日だ

教えてくだない! ACEの仕事ぶり



「奥刺に仕事を覚えようとしています。やる気があります」と先輩の佐々木功さんは高橋さんを評する

既に10年以上社会人を経験していますから、仕事に対する考え方はしっかりしています。仕事を覚える上で分からないことがあれば迷わずに聞いてきますし、真剣に仕事を覚えようとしています。やる気が見えますね。見て、聞いて、様々なことを覚えて、そうした中から自分に合ったやり方をどんどん身に付けていってほしいと思います。コミュニケーション能力も高いですし、性格は朗らか。長く第一産機で活躍してほしいです。

先輩に
聞いて
みました!

ステンレス製作担当
佐々木 功 さん
Isao Sasaki

product
堆肥を燃料にできる
バイオマスボイラーを製品化

地球温暖化防止の観点から、バイオマス資源に注目が集まる中、堆肥などを燃料にできるバイオマスボイラーを提案する。



まずはものづくりの基礎を学ぶ!

ソフトテニスが縁結ぶ
製作サポートの役割を
日々、全力で務める

高橋淳さんは現在32歳。株式会社第一産機に入社する前に、いくつか職を経験してきた。「河南高校（現石巻北高等学校）の農業科を出て、初めに入ったのは造船関係の会社でした。その後も、ものづくり関係や、動物の世話をする仕事などをしてきました。そして、昨年12月から縁あって、第一産機で働くことになりました」

第一産機と高橋さんを結び付けたのは趣味のソフトテニスだった。「自分は学生時代に打ち込んだソフトテニスを今も趣味にしている、長く社会人サークルに参加しています。そこに第一産機の平塚弘部長もいらっしやあって、一緒に働かないかと誘ってくださったのです」

それが2022年の春頃のこと。待遇面などを熟考した結果、高橋さんは転職を決意する。仕事の引き継ぎなどを経て、22年12月に第一産機の一員となった。今、高橋さんは「製作サポート」という役割を一生懸命果たしている。



従業員が互いに協力し合う雰囲気になった第一産機。それぞれが高い責任感を持って作業に当たる

畜産・農業・水産業における廃棄物の3Rを独創性と技術で支援
地産地消を促進し、循環型社会の形成に寄与する

リデュース・リユース・リサイクルを畜産・農業・水産業から生まれる廃棄物において実現することを、企業として一つの目標にしている。「温室効果ガスの抑制等が実施可能な機器の開発に努め、新しい地産地消を生みだし、結果として雇用の発生を促し持続可能な循環型社会の形成に寄与したい」と理念をうたう。バイオマスボイラー「WABE-20B」が2021年の第13回みやぎ優れMONOの認定を受けた。従来、一部が産業廃棄物として処分されており、燃料として利用が難しかった堆肥やもみ殻、おがくずなどを独自開発の燃焼方式により連続自然燃焼できる、まさに優れもの。バイオマスボイラーから生まれる排熱の利用も提案するなど、循環型社会を強く推進する企業を目指している。

株式会社第一産機

所在地/石巻市鹿又字下谷地188 □代表取締役/伊藤 銅一 □資本金/1,000万円 □創業/1995年7月 □従業員数/15人(2023年1月現在)
事業内容/各種機械装置の設計、製作据付工事、メンテナンス、バイオマスボイラー製造・販売ほか
経営理念/地域産業の効率化・生産性向上の為の設備戦略において、独創性と技術で支援し「頼られる企業」を目指す
TEL 0225-74-2975 https://d-sanki.jp/



東海高熱工業株式会社 仙台工場（柴田町）
製造課 エレマ加工担当

大倉 光騎 さん（27歳）
Koki Okura



微細な温度調節が可能なエレマ発熱体
品質向上にためまぬ努力重ねる

東海高熱工業株式会社はエレマ発熱体生産のトップ企業で、
本社は東京にあるが、工場は柴田町にある。
1936年の創業以来、ファイナセラミックスのパイオニアとして
高熱高温分野における材料、工業炉製品の開発を推進。
電気炉の熱源として用いられるエレマ発熱体は
47年から製造・販売を開始している。

入社4年目を迎える大倉さん。会社の発展に寄与すべく、今後も成長を続ける

成長を実感する仕事
自分のことができることを
着実に増やしたい

エレマ発熱体は炭化けい素を材料として作られている。金属ヒーターと比較して、耐高温性、耐酸化性、耐侵食性に優れるほか、強度が高く、衝撃にも強い。さらに化学的安定性も高く、大気汚染や騒音公害のない熱源として広く利用されている。このエレマ発熱体に用途に合わせたコーティングを施す作業は筆を使って行われる。「いろいろ工夫しながらコーティング剤を塗っていきませんが、速く、きれいに塗れたときは大きな喜びを覚えます。こういうことができるようになった、という成長の手応えを得やすいので、その点もやりがいのある仕事だと感じています」
大倉さんが今、自身の目標に掲げているのは、より多くの作業について知り、できるようになることだ。「関わる作業が100あるとしたら、まだ自分は20から30くらいしかできません。いろいろなることを身に付けて、より効率良く仕事が回るようにしたいです」。大倉さんの日々の努力が会社の発展につながる。



a:「作業にだいぶ慣れてきた」と話す大倉さん b:コーティング剤は筆を使って丁寧に塗る
c:コーティング剤を炉で焼き付ける d:余念なく仕上がりを確認

教えてくだない! ACEの仕事ぶり



大倉さんのコミュニケーション能力を高く評価する米久課長。人柄の良さにも太鼓判を押す

ハキハキしていて、性格は明るく、コミュニケーション能力が高いです。指示に対する理解力もあり、仕事はできばきとこなしてくれます。失敗したときの報告もすぐに行うなど、報告、連絡、相談の報連相がしっかりとできています。製品のアイテム数が多いですから、もっと知識も技術も身に付けてほしいですね。そして、ゆくゆくは仙台工場を力強く引っ張っていきリーダーになってもらいたいと考えています。



仙台工場製造課兼設備課課長
米久 直幸 さん
Naoyuki Yonekyu

上司に
聞いて
みました!

高熱高温分野のパイオニア
グローバルな視野で社会に貢献する製品を提供

1936年、耐火煉瓦の製造研究を目的とし、東極興業株式会社の名称で東海カーボン株式会社（旧東海電極製造株式会社）の姉妹会社として設立された。時代の変遷に合わせ、発熱体や工業炉を中心に新製品の開発に取り組んできた。炭化けい素を材料とするエレマ発熱体は表面温度が1500℃まで耐えられるなど、セラミックスやガラスなどを製造する炉で使用され、東海高熱工業の製品はその品質が高い評価を得ている。また、工業炉は急速な発展を遂げている情報技術関連業界やエネルギー関連業界を中心に、国内はもとより世界各国の様々な分野で利用が進む。加えて、耐火物やエレマ抵抗器、高温セラミック材料なども手掛ける。

東海高熱工業株式会社

□所在地／東京都港区北青山1-2-3 青山ビル3F(本社)、柴田郡柴田町大字中名生字佐野34-1(仙台工場) □代表取締役社長／佐藤 明彦
□資本金／14億円 □創業／1936年2月 □従業員数／204人(うち仙台工場117人、2023年1月現在)
□事業内容／工業炉をはじめ、高級耐火物や耐火材、抵抗器などの開発、生産、販売 □経営理念／独自の技術でファインセラミックス界のベストパートナーを目指す
TEL 03-5772-8211(本社代表)、0224-54-2427(仙台工場) <https://www.tokaikonetsu.co.jp/>



上:若い社員が多く在籍する。「後輩もどんどん入ってきて、指導する機会も増えた」と大倉さん
下:仙台工場は1964年から稼働を開始。60年近い歴史を持つ

product

改良重ねるエレマ発熱体
ニーズに合わせて多様な製品を生産

独自の開発技術や内外の知見を積極的に取り入れ、製品の改良を続ける。
業界最大の生産規模を持ち、高品質の製品を提供する。

蓄積された
ノウハウが
随所に生きている!



機械に興味があった
雰囲気の良いから
東海高熱工業に決めた

幼少期は「ザリガニ捕りや、昆虫採集に夢中になっていた」と話す大倉光騎さん。東海高熱工業株式会社仙台工場働き始めて、まもなく丸3年になる。村田高等学校出身で、卒業後は「自分で早くお金を稼ぎたい」と就職の道を選んだ。元々機械に興味があり、ものづくりの世界に入りたいという希望を持っていた。就職活動を進める中で、「就職を考えていた会社が他にもあったのですが、担任の先生に勧められたのが東海高熱工業でした。工場見学に行ったら、働く人たちが皆温かそうで、ここがいいなと思いました」
就職試験を経て、無事、採用に至る。「採用の知らせを受けたときは家族みんな喜んでくれ、お祝いしてもらいました」。2020年の4月に入社以来、製造課でエレマ発熱体へのコーティング加工を担当している。「このコートによって発熱体の寿命が変わるのです。重要な任務を担当させてもらっています」